

製品名: インテグリン α X ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12675**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	ITGAX CD11C
別名	Integrin alpha-X (CD11 antigen-like family member C; Leu M5; Leukocyte adhesion glycoprotein p150,95 alpha chain; Leukocyte adhesion receptor p150,95; CD antigen CD11c)
遺伝子 ID	3687.0
SwissProt ID	P20702
免疫原	アミノ酸 920~980 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

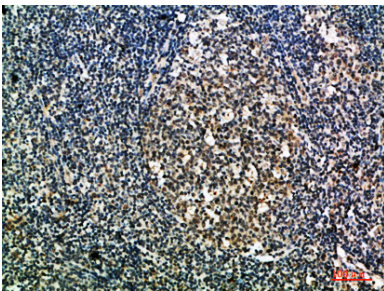
背景インテグリンサブユニット α X (ITGAX) Homo sapiens この遺伝子はインテグリン α X 鎖タンパク質をコードしています。インテグリン

ンは α 鎖と β 鎖からなるヘテロ二量体の膜貫通タンパク質です。このタンパク質は β 2 鎖 (ITGB2) と結合して、不活性化 C3b (iC3b) 受容体 4 (CR4) と呼ばれる白血球特異的インテグリンを形成します。 α X β 2 複合体は、刺激を受けた内皮細胞への好中球および単球の接着、および補体被覆粒子の貪食において、 α M β 2 インテグリンの特性と重複しているようです。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2013 年 11 月]、ドメイン: インテグリン I ドメイン (挿入) は VWFA ドメインです。I ドメインを持つインテグリンはプロテアーゼによる切断を受けない。機能: インテグリン α -X/ β -2 はフィブリノーゲンの受容体である。フィブリノーゲン中の G-P-R 配列を認識する。炎症反応における細胞間相互作用を媒介する。特に単球の接着と走化性において重要である。類似性: インテグリン α 鎖ファミリーに属する。類似性: 1 つの VWFA ドメインを含む。類似性: 7 つの FG-GAP リピートを含む。サブユニット: α サブユニットと β サブユニットのヘテロ二量体。 α -X は β -2 と会合する。組織特異性: 主に単球と顆粒球で発現する。、

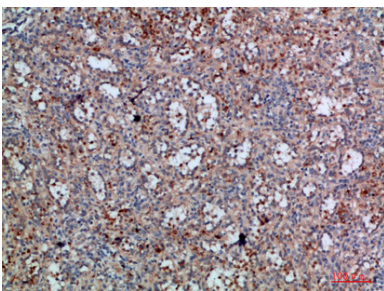
研究分野

アクチンと細胞骨格を調節します。

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



パラフィン包埋ヒト脾臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された